

東海大学博物館だより

# 海のはくぶつかん



2019年カレンダー

**Vol.49** No.1

2019.1 冬号

## C O N T E N T S

- 話題** ・南アルプスでの植生復元活動 ————— 太田勇太 2
- 話題** ・第10回世界水族館会議2018福島 ————— 山田一幸 3
- イベント** ・わくわく釣りたいけん教室2018秋 ————— 手塚覚夫 3
- 特別展** ・干支の生き物 一亥一 ————— 犬木義文 4
- INFORMATION** ————— 4

# 南アルプスでの植生復元活動

太田 勇太  
Yuta OTA

2018年9月15～17日に静岡県と環境省、そして南アルプス高山植物保護ボランティアネットワークが主催する植生復元活動に参加しました。活動場所は、南アルプスの三伏峠（標高2580m）と塩見岳（標高3047m）です。三伏峠は長野県下伊那郡大鹿村と静岡県葵区の境界域にある日本で最も標高の高い峠です。

初日は雨天の中、三伏峠小屋を目指して登山を開始しました。登山道は、木でできた足場や湿った斜面が多く、終始緊張感を持って歩みを



木でできた足場

を進めました。天候・視界共に悪い状況でしたが、4時間かけて三伏峠にたどり着いた後、昼食をすませて防鹿柵が設置された場所へと移動します。そこは三伏峠で花畑と呼ばれる高山植物の群生地で、作業は雪の重みで傾いた柵の補修です。柵は、鹿が群生地に侵入し、貴重な高山植物を食べてしまわないように設置されています。しかし、冬になると、この防鹿柵は雪の重さによって歪んでしまうため、雪解け後に鹿の食害にあってしまいます。高山植物は、域外保全が難しいために保護する方法として生息地での保全や鹿の駆除がその手段となります。この高山植物を守るため、歪んでしまった防鹿柵を数人で持ち上げて直します。これが結構な力作業で、雪による力の大きさが伺えます。また、作業をしていると、時折



防鹿柵の補修作業

柵の外側に黒いコロボロした物体を見掛けます。これは鹿の糞ですが、柵の周りで見られることから、防鹿柵が有効であることがわかります。

翌日は日が昇る前の薄暗いうちに、三伏峠小屋から塩見岳を目指して出発しました。この日の作業はヤシマットの施工作業です。このマットを設置することで、山の斜面の崩落を押さえ、高山植物の種子が定着しやすくするのが目的です。山頂へ向かう登山路はぬかるんでおり、途中からは山の稜線やガレ場も進みます。視界が悪い為、崖下は見えません。途中、塩見小屋でヤシマットを受け取り、それを背負ってさらに山頂を目指します。足が震える中、ようやく目的地へと到着しますが、作業場も急傾斜地で気が抜けません。少しでも転がると本当に危険です。そんな条件の中で作業が始まりました。ヤシマットを、間隔を空けずに敷き詰め地面に固定していきます。このヤシマットですが、3年でぼろぼろになるため、定期的に交換が必要です。そのため、こうした保護保全活動は一回では終わらず、定期的な実施が必然となります。



ヤシマットの設置作業

3日目は、三伏峠の季節型防鹿柵を撤去し、下山しました。高山に限らず生物の減少は早く、植物群落ではその姿を取り戻す為に多くの時間や労力を要します。今回の活動によって、少しでも多くの高山植物が定着することを期待しながら南アルプスを後にしました。本格的な山登りは初めてで、戸惑うことばかりでしたが、充実した経験をする事ができました。これからも南アルプスの豊かな自然を守り、未来へと繋いでいくお手伝いをしたいと思います。

当館には南アルプスの自然を紹介する展示があります。来館された際は是非、ご覧になって下さい。

# 第10回世界水族館会議2018福島

山田 一幸  
Kazuyuki YAMADA

2018年11月7～10日、福島県いわき市の小名浜魚市場を会場にして「第10回世界水族館会議2018福島」が、「水の惑星・地球の未来について考える」のテーマの下に開催されました。今回のホスト館であるアクアマリンふくしまと当館は共同プロジェクトを実施しており、その内容について発表するために参加してきました。

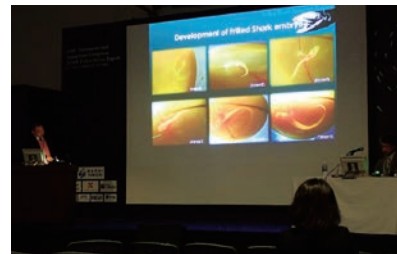
この会議は1960年にモナコ海洋博物館で開催されて以来、今回で10回を数える歴史ある国際会議で、世界中の水族館関係者や研究者などが集まり意見を交わします。今回も35カ国、約500人もの参加者があり、基調講演や多くの演題発表、さらに数々のイベントや関連企業などによる出展など盛りだくさんの内容で開催されました。



会場の様子

私の発表タイトルは「Fried Shark Research Project」で、深海ザメのラブカに関するプロジェクトについて、これまでの経緯や成果を会議3日目に報告しました。いつも参加する国内の研究会や会議と違い全

て英語で発表しなければならないため、当日は少々戸惑うこともありましたが無事発表を終えました。残念ながら、その場で



プロジェクトについて発表する筆者

の質問などはありませんでしたが、ガラパーティーでは何名かの海外の水族館関係者に話しかけられ、より詳しくお話することもできました。また、多くの発表を見聞きし、国内はもちろん、海外の水族館の現状をうかがい知ることができたことは大変勉強になり、貴重な経験となりました。

## わくわく釣りたいけん教室2018秋

手塚 覚夫  
Sadao TEZUKA

2018年10月に博物館裏の真崎海岸にて(株)釣具のイシグロ、日本釣振興会静岡県支部、東海大学海洋学部釣魚部のご協力をいただき、「わくわく釣りたいけん教室」を開催しました。このイベントは、釣りを始めるためには何を準備したらいいのか、また、海で注意する点や安全に釣りを楽しむために重要なポイントを、スタッフが楽しくレクチャーしていくという趣旨で実施しました。

一番重要なことは、安全に釣りをすること。そのためには、必ずライフジャケットを着用することから始めます。また、海釣りでは色々な魚が釣れますが、中にはずるとい歯をもつフグやウツボ、あるいはゴンズイやアイゴ、ハオコゼなどのように鱗の棘に毒を持つ生き物もいるため、危険な魚とその対処についても紹介しました。

イシグロスタッフによる釣り方指南の後、いよいよ実釣です。釣魚部の学生による手とり足とりの指導で、しばらくすると皆さんみるみる釣りの腕前が上達しました。エサを付けることができるようになったお子さんや、狙ったポイントに仕掛けを投げることができるようになった保護者の方など、次回からは自分たちだけでも十分に釣りを楽しむことができるくらいに上達していま



釣り上げた魚

した。

朝まで降り続いた雨の影響などもあり、釣果は今一つでしたが、マダイやクロダイの他、スズキの幼魚、キュウセン、ヒメジなどを釣り上げることができました。

釣れた魚たちについては、スタッフが詳しく解説しました。魚について詳しくなっただけのもの、この教室の重要なポイントの一つです。

最後には、釣り場の清掃をしました。次の世代にこの素晴らしい海を引き継いでいくことが私たちの重要な使命です。そのために、これからも海に親しみ、楽しく学べるイベントを実施したいと思います。

参加者の方々も含め、ご協力いただいた皆様のおかげで無事に実施することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

# 干支の生き物 一亥一

犬木 義文  
Yoshifumi INUGI

海洋科学博物館では、お正月の恒例展示として、その年の干支にちなんだ海の生き物を紹介しています。干支というと、年末年始くらいしか話題になりませんが、実は暦の月などを表すときにも使われます。2019年の干支は亥（イノシシ）ですが、西日本を中心とした地域では、亥の月である旧暦の10月（現在の11月頃）の亥の日に「亥の子」と呼ばれる年中行事があり、亥の子餅を食べ子孫繁栄などを祈るほかに、子供たちが地区の家々をまわり、家の前の地面を亥の子石や藁鉄砲で搗いて邪気を払うそうです。私の地元は関東でしたが「十日夜」と呼ばれる似た行事があり、晩秋の風物詩でした。

さて、話を本題の2019年の干支である「イノシシ」にちなむ海の生き物に戻します。今回は、私が調べた「イノシシ」にちなむ魚をご紹介します。

## ・イサキ *Parapristipoma trilineatum*

本種は、黒潮流域に多くみられる魚で、沿岸の岩礁域や内湾などに生息しています。本種のどこがイノシシと関係し



イサキ

ているかと言いますとそれは子どもの時の模様にあります。イサキの子どもには黄色い縦縞があり、その模様がイノシシの子に見えることからウリボウ（イノシシの子どもの呼び方）と呼ばれています。

## ・シマイサキ *Rhyncopelates oxyrhynchus*

本種は、汽水域でよく見られる魚で、イサキの子どもと同じく縞模様がイノシシの子に似ていることから鹿児島県ではイノコと呼ばれています。市場に出回することはあまりありませんが、食べるとおいしい魚で、釣りあげるとウキブクロを使いグーグーと鳴く面白い生態を持っています。



シマイサキ

このほかにも、コトヒキ（イノコ）やキツネダイ（イノシシ）など亥にまつわる魚がいますが、今年も干支の生き物の展示として何種かを展示したいと思っています。ぜひ12年に一度の亥年の展示をみに来てください。



## ～博物館からのお知らせ～

### ●干支の生き物 一亥一

1月1日（火・祝）～1月14日（月・祝）

### ●化石クリーニング

～お正月特大バージョン～（有料）

1月1日（火・祝）～1月6日（日）  
・12日（土）～14日（月・祝）  
10:00～12:00・13:00～15:00



### ●古代ザメ・メガロドン化石の展示

1月1日（火・祝）～1月14日（月・祝）

### ●2019年博物館オリジナルカレンダープレゼント

1月1日（火・祝）～1月6日（日） 各日先着100名

お問い合わせ：TEL.054-334-2385

ホームページ <https://www.muse-tokai.jp/>